胃がん検診を
これから受ける方、受けた方へ

胃がんについて

- わが国では50歳代以降に罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- 胃がん検診で早期に発見して治療することにより、胃がんで亡くなることを防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。
- 胃がん検診は50歳になったら2年に1度、胃部のX線検査もしくは胃内視鏡検査を繰り返し受けてください。ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- 胃がん検診には利益（胃がんで亡くなることを防ぐ）と不利益（偽陰性、偽陽性など）があります。
  偽陰性とは実際にはがんがあるのに見つけられないこと、偽陽性とは実際にはがんでないのに「要精密検査」と判定されることです。利益が不利益を上回るように受けることが大事です。
  胃部 X 線検査と胃内視鏡検査を毎年交互に受診することは不利益が大きくなるため、推奨されていません。
  このリーフレットでご案内した検診方法（受診年齢、受診間隔、検査項目）は、検診の利益が不利益を上回ることが科学的に認められています。
- 胃がん検診で「要精密検査」となった場合は胃がんの疑いがありますので、必ず精密検査を受けてください。
- 精密検査は胃内視鏡検査です。



「胃がん」「がん検診」などのがんの情報についてもっと詳しく知りたい方に、国立がん研究センターのがん情報サービスは、わかりやすく確かな情報をお届けしています。

国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp

つくるを支える 届けるを贈る
がん情報ギフト

国立がん研究センターは、皆さまからのご寄付で「確かな・わかりやすい・役立つ」がん情報をつくり、全国の図書館などにお届けするキャンペーンを行っています。ぜひご協力ください。

発行：国立がん研究センターがん対策研究所　2023 年 12 月
協力：厚生労働行政推進調査事業費補助金「検診効果の最大化に資する職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究」班
国立がん研究センター研究開発費「働く世代におけるがん検診の適切な情報提供に関する研究」班

※＜市区町村の住民検診を受けられた方へ＞
がん検診の精度管理のため、精密検査の結果は市区町村へ報告されます。また最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。

胃がん検診を受ける前に知っておくこと

胃がんに罹患する人（かかる人）は50歳代以降に多く、わが国のがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。国が推奨している胃がん検診（胃部X線検査、胃内視鏡検査）は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。早期発見、治療で大切な命を守るために、50歳以上の方は2年に1度、繰り返し検診を受診し、「要精密検査」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。

すべての検診には「不利益」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんががん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精密検査」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったために不必要な治療を受けなければならない場合もあります。さらに、検査によって出血などが起こることがあります。

がん検診の利益（がんで亡くなることを防ぐ）と不利益のバランスの観点から、このリーフレットにある受診年齢、受診間隔、検査項目を守りましょう。

詳細はこちらをご覧ください。
https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about_scr01.html

胃がん検診の流れ

受付（保険証の提示、質問票の記入）

↓

問診（症状※があれば報告）
※胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなど

↓

胃部X線検査もしくは胃内視鏡検査

- **胃がんの疑いあり 要精密検査** → 必ず受けてください → **精密検査**（胃内視鏡検査）
  - **胃がん** → **治療**
  - **胃がんなし** → **2年後の検診**
- **胃がんの疑いなし 精密検査不要** → **2年後の検診**

胃部X線検査

発泡剤（胃を膨らませる薬）とバリウム（造影剤）を飲み胃の中の粘膜を観察する検査です。検査後、バリウムで便秘になったり、腸内で詰まって腸閉塞を起こすことがあります。また、過去にこの検査で問題があった方や、水分制限を受けている方は、検査を受ける前に医療スタッフにご相談ください。

胃内視鏡検査

口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入し、胃の内部を観察する検査です。検査前に喉の局所麻酔などを行います。検査時に疑わしい部位が見つかればそのまま精密検査として生検（組織を採取し、悪性かどうか調べる検査）を行う場合があります。その場合は保険診療となり自己負担が発生します。

- 検査当日は朝食が食べられません。
- 常用薬、アレルギーがある場合はご相談ください。

精密検査は胃内視鏡検査

胃部X線検査後の精密検査は、胃内視鏡検査を行います。検査で疑わしい部位がみつかれば、生検（組織を採取し、悪性かどうか調べる検査）を行う場合もあります。

- 検診で胃内視鏡検査をうけた場合、精密検査は、検診時に同時に行う生検や、胃内視鏡検査の再検査となります。



50歳になってから、2年に1回、X線または内視鏡による検診を繰り返し受けることで、胃がんで亡くなることを防ぐことができます。

胃がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず2年に1度、繰り返し検診を受けてください。胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合には次の検診を待たずに医療機関を受診してください。胃部X線検査と胃内視鏡検査を毎年交互に行うことは不利益が大きいため、推奨されていません。